



日本ビオトープ管理士会 近畿支部 研修会

## 探鳥会 in 万博記念公園

－ 生物多様性 豊かな万博公園の森で バードウォッチング －

日時： 平成28年1月24日（日）  
場所： 万博記念公園（吹田市）  
参加者： 8名  
主催： 日本ビオトープ管理士会 近畿支部  
講師： 有賀憲介氏（吹田野鳥の会）  
概要： 野鳥観察 & 越冬生物観察



### 《研修レポート》

毎年この時期に、近畿支部恒例の「万博記念公園探鳥会」を行ってきましたが、今回は「近畿支部研修会」と銘打って、正式な支部行事として開催しました。

この日はこの冬一番の「大寒波」襲来…、日中の最高気温も2℃ほどと冷蔵庫内（冷蔵室）よりも寒い中、防寒服で着ぶくれ気味の一行8名で観察会をスタート！



ここ万博記念公園の森は、45年ほど前に建てられた万国博覧会パビリオンの跡地に育てられた人工の森…、ですが、今や大きく育った木々は、昔ながらの「自然の森」を思わせる雰囲気醸し出していますね。

森の生長とともに、生態系も豊かに、そして複雑に成り立っているのでしょう、里山生態系の頂点に君臨する、シンボリック的存在、「オオタカ」までもが繁殖する環境になっています。

「ハイタカ」がいました！

時おり翼をはばたかせ、円を描くように上空高く舞い上がっていく姿を見つけたのです。

（右の写真は、上空を舞うハイタカ。有賀様撮影）



この日は「オオタカ」の姿を見ることはできませんでしたが、樹林内を歩いているとき、林床に鳥の羽が散乱しているのを見つけました。

「オシドリ」の雄の羽みたいでしたが、もしかすると「オオタカ」に食べられた痕跡なのかも知れませんね。

池のほとりでは、青い宝石「カワセミ」のハンティングの様子を観察することができました。

大寒波による身を刺す「寒さ」が幸いしたのか、園内を散策する人の姿もほとんどなく、野鳥たちの警戒心も薄れていたのでしょうか、我々数人が観察していてもカワセミ君、気に留める様子もありませんでした。

右の写真は、池の水面に張り出したマツの木の枝にとまって、水中を泳ぐ小魚などの様子を探っているところだと思います。

ターゲットをしぼると、スッと飛び立ったかと思うと「ポチャン」という音とともに水中へ！

すぐにまた、近くの枝に舞い戻ってきますが、そのくちばしには、獲物である小魚やザリガニの姿を見ることも！



梅林エリアがありましたので、立ち寄ってみると……、気の早いウメの花がちらほらと咲いていました。

この梅林の見ごろは「3月上旬」だそうで、まだもう少し先だなあ、などと思っていると、「ヒッヒッ カッカッ」という鳴き声が！

声のする方向に足音を立てずに近づいてみると……、いました いました！

黒とグレー、オレンジの配色も美しい「ジョウビタキ」の雄ですね。

野鳥の姿だけでなく、越冬している虫たちなど「生きもの」も探してみました。

枯葉に擬態しているのか、茶色い葉の上でじっと動かない「ムラサキシジミ」や、木の幹に立てかけてある板をそっと除けてみると……。

(右の写真をご覧ください)

【越冬している生きものたちを目覚めさせないように、観察後は元通りに戻しておきました】

講師役をお引き受けくださいました有賀様、どうもありがとうございました。

